

## 第4回蒲郡市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進協議会 議事録要旨

1. 日時 平成28年2月16日(火) 10:00~11:40

2. 場所 蒲郡市役所 5階 庁議室

### 3. 参加者

(1) 蒲郡市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進協議会 委員

1) 村松 敏夫 氏 (蒲郡商工会議所 専務理事)

2) 千賀 博幸 氏 (蒲郡市農業協同組合 専務理事)

3) 荒島 祐子 氏 (蒲郡市観光協会 専務理事)

4) 小林 正人 氏 (蒲郡信用金庫 専務理事)

代理出席 地域振興部長 寺尾 弘春 氏

5) 水野 正行 氏 (連合愛知三河東地域協議会 蒲郡地区連絡会 議長)

6) 天野 忠則 氏 (蒲郡市総代連合会 会長)

7) 金子 哲三 氏 (がまごおり市民まちづくりセンター 代表)

8) 太田 和佳奈 氏 (蒲郡市保育園父母の会連絡協議会 会長)

9) 和泉 潤 氏 (名古屋産業大学 特任教授)

10) 井澤 勝明 氏 (蒲郡市 副市長)

(2) 事務局

・蒲郡市

企画部 部長 大原義文

企画部企画政策課 次長兼課長 尾崎弘章、係長 小山道徳 外1名

・(公社)東三河地域研究センター

常務理事 金子鴻一、常務理事 加藤勝敏、主任研究員 高橋大輔

(3) 傍聴者 4名

(4) 記者 2名

### 4. 議事内容

(1) 会長挨拶

(2) パブリックコメントの結果について

○事務局(企画政策課小山)から、パブリックコメントの結果について説明。

## ○委員意見

- ・全体的に総合戦略に対するコメントでは事業ベースに入り込む意見が見受けられた。それを受けて今後の考え方として事業を進める視点からも検討することも必要であろう。
- ・人口減少を蒲郡市としてどう捉えるかを考えることが必要。
- ・4つの戦略はどれも重要であるが、それぞれを横並びで考えるのではなく、人口減少に対応することに対し、メリハリをつけて重点化する姿勢をみせるのが必要。
- ・No.3、No.8、No.55の意見は特に重要であると考ええる。出生率の目標値は国とあわせるような姿勢をみせてはどうか。
- ・どれが重要かという意見は当然ある。4つの施策を並べれば4つとも重要であると考えている。(事務局)
- ・出生率の目標をもっと高めてはどうかという意見もあるが、本市の出生率の推移を踏まえ設定させて頂いたものである。(事務局)
- ・子育て戦略が1番になっていることを蒲郡市の戦略の特徴としてアピールしてはどうか。
- ・No.2の有効求人倍率に関するコメントへの回答が説明的になっている。事業に取り組むために、取り組みの例示を示す方が良いのではないか。
- ・「参考意見として受け止め…」のみの回答は何もしないとも受け止められる。もう一言加えてはどうか。
- ・個別の意見に対応して回答することも大切だが、類似したコメントの内容を類型化して仕分けをした上で全体として回答することもわかりやすいのではないか。戦略の取り組みを説明する上でも説得できるのではないか。
- ・コメントに対する回答の仕方は事務局と相談して検討したい。
- ・観光に関するデータの指標は最新のデータが反映されているのか。
- ・蒲郡市として補助金を獲得していくためにはメリハリが必要。
- ・担当課に確認をとり適切なデータを示している。(事務局)
- ・戦略の具体化に際してはメリハリが重要と受け止めている。今後、戦略から実行段階に移る際には国の補助金を活用しながら、メリハリをつけた施策を講じていきたい。(事務局)
- ・具体的な事業を進めるイメージやスケジュールは検討しているか。
- ・戦略を3月で策定するが、平成28年度の具体的な事業はまだ見えない。戦略は大きな方向性で良いが、次年度以降にまずはこれをやるという姿勢が必要。アクションプランをしっかりと作ることが重要。戦略の策定のみで終わらずにPDCAを進めながらKPIを実現してほしい。
- ・2060年になり6.1万人へと人口減少となった場合に、蒲郡市の今後の予算の体系はどのようにイメージしているのか。将来、人口や事業所の減少に伴い、どの程度税収が減少するのかについてもシミュレーションが必要ではないか。長期的な市の税収の見通しを持ち、将来の姿を考えておくことも重要。

- ・今後、PDCA サイクルを進め、実施事業を随時検討、見直しをしながら進めていきたい。  
(事務局)
- ・具体的な事業については協議会委員の皆様の協力も得ていきたい。(事務局)
- ・国が将来のしっかりとした税制体系を示していないので、基礎自治体が将来の税収のイメージを持つことは難しい。戦略を事業に落とし込んでいく段階では数値イメージを持っておく方が説得材料になる。
- ・公共施設の将来計画のあり方も人口の動きをとらえながら考えることが必要。農協においても将来の会員規模を予測しながら事業のあり方を考えている。場合によっては事業を縮小していくこともある。市民に対しても、市が行う事業や公共施設整備などに対して縮小などの痛みを伴うことも市民に示していくことも重要。
- ・50年先を見通すことは難しいが、痛みも伴う可能性があることも、感覚的ではなく根拠を示していくことも重要であると認識している。(事務局)
- ・今回策定した人口ビジョンから読み取れることを活かしながら、各種計画も検討していきたい。(事務局)
- ・蒲郡のサービス業や商業、蒲郡駅周辺市街地の将来をしっかりと考えていくイメージも今後検討してほしい。
- ・今後、国内外の観光客や宿泊数は増えることが期待されている。蒲郡市中心部にも訪れてもらうために商業地としての魅力を高める戦略を考えることが重要。もう一度商店街を活性化させていくイメージが重要。蒲郡市の中心市街地の将来の魅力や夢を描いてほしい。
- ・重要な視点であり、4つの方向性を同一で進めていくことも重要であるが、蒲郡としての特色を出すため4つの戦略に明確なメリハリをつけて考えていくことも今後の検討の一つ。
- ・蒲郡市は内部のプランや内部の議論だけで大きな方向性が出たことは少なかった。外部の企業や資本が入ることで大きな動きになっていった。
- ・若者の異業種交流を進める動きがある。若い人の取り組みやアイデアを社会がどう支えていくかが重要。それがあれば若者のモチベーションもアップし取り組みが拡大していく。
- ・この総合戦略の内容は市役所内の各課ができるかできないかで事業の取捨選択がされているように感じる。民間は取り組む機動性やチャレンジは早い。もっと民間や市民にチャレンジしてほしいメッセージやそうした活動に行政がしっかりと支援していくことが読み取れるような内容にして欲しい。
- ・蒲郡の人口は減少していくため、蒲郡単体ではなく広域でとらえることも重要。
- ・将来人口の6.1万人に見合ったコンパクトシティの体制づくりを考えていくことも重要。
- ・市単独での財政状況で戦略を進めていくことは困難である。国からの補助金が必要と感じる。国の支援の活用の仕方が重要。

- ・人口8万人の都市規模でパブリックコメントが3名という人数はどう認識しているか。
- ・自治体規模で3名であることの多い少ないは比較できないが、コメント件数は大変多かったと認識している。(事務局)
- ・総合戦略と総合計画との関係が見える形で最初の方に書いていくことも重要。
- ・上位計画は総合計画であるため、その中で総合戦略を進めていきたい。整合性を図りながら進める。(事務局)
- ・保育園児を持つ母親に聞けば子育てに対する意見はもっと多く聞けるが、すべて実現できる訳ではない。本当に市が進めていく事業をしっかりと示していくことも重要。
- ・今後、戦術を検討していく。アンケートの意見や市の財政、国の動向を見ながら、効果のある政策から進めていきたい。(事務局)
- ・具体的な計画をもっと書き込めればより良くなるが、行政の施策も多岐にわたるので目標数値を書き込むことは限界がある。委員の皆さんから今後もチェックや意見をいただいで進めていきたい。
- ・今後もタウンミーティングのように様々な立場の人との意見交換ができる場を作って欲しい。
- ・今後、この戦略の進捗動向についてどうやってチェックしていけばよいか。
- ・市民へはホームページ等を活用して示していきたいと考えている。(事務局)
- ・戦略策定後は、蒲郡らしさを示しながらロードマップや戦術、具体的な事業を実施してほしい。PDCA サイクルで改善に結びつけながら進めて頂きたい。
- ・総合戦略は、決定機関である本部会議にこの協議会の意見を報告し3月中に策定する。本部会議を経て策定された内容を改めて示す予定。(事務局)

### 3. その他

次年度以降は本協議会を総合戦略の検証をする外部機関として位置づけ、引き続き参画の依頼。